

令和5年3月大東市議会定例会月議会

令和5年度
施政方針要旨

大東市長 東坂 浩一

令和5年3月定例会月議会の開会にあたり、提出させて頂きました諸議案のご審議に先立ちまして、令和5年度の市政運営の方針と施策の概要について、ご説明を申し上げます。

【はじめに】

約3年前から流行が始まった新型コロナウイルス感染症は、この春、季節性インフルエンザと同じ法的位置づけに引き下げられるという方針が発表され、新たな局面を迎えようとしております。

これほどまで長期にわたり世界を揺るがすウイルスの脅威が出現することは、予測が困難だったかもしれません。しかしながら本市は、コロナ禍に至る前から既にパンデミックの発生リスクを想定しておりました。だからこそ、その時点でもう少し深い検討を進めておくことができたのではないかと思います。

これからも想定外を想定内とすること、そしてあらゆる想定に確実に対応できる体制を「現実化」することを深く肝に銘じ、市政を運営してまいります。

遑って高度経済成長期の日本は、都市インフラの整備や人口の集中など、「拡大」による発展を遂げてまいりました。その「拡大」が飽和の段階を迎え、価値観の転換が求められるようになって久しく経ちます。コロナ禍という未曾有の事態は、一極集中のビジネスモデルやサプライチェーンの見直しを余儀なくさせるなど、高度経済成長期の社会システムでは、時代の変化に対応することが難しくなっている現状を、改めて浮き彫りにしました。コロナ禍が私たちへの警鐘となり、社会の在り方や価値基準を正面から見直すきっかけを得た今こそ、新たな社会システムの構築につなげる絶好の機会と捉えるべきです。

いつの時代も、それまでの社会の価値観を転換させた人々が共通して行ったこと、それは「見立て」の「現実化」です。ここで言う「見立て」とは、単に予測したり、あるものを別のもの

ので表現するというものではありません。私の思う「見立て」とは、めざす将来像を掲げ、その実現に向けて、従来の発想にとらわれない多角的な思考で事象を捉えなおし、確かな道筋を見定めて、新たな価値を創出することにあります。

かつて、争いが絶えず、人々が精神的にも不安定だった時代を憂いた茶人の千利休は、質素な日常の生活用品を茶道具として取り入れるなど、精神性を重んじる新たな価値観を「茶の湯」として大成させました。武力こそが全てだった戦国時代、茶の湯という文化がもたらす精神的な豊かさは、時の天下人をはじめ多くの人々の心に響き、大変な流行となったのです。その結果、茶器は領地に匹敵するほどの社会的価値を見出され、やがて茶の湯は戦国時代の体制を動かすほどに影響力をもつこととなりました。

千利休は、日常にあふれる物や存在に、これまでとは違った切り口や発想を加えて「見立て」を行い、誰もが実感できる形で「現実化」し、積み重ね、社会に定着させることで、パラダイムシフト、すなわち価値観の転換を巻き起こしたのです。

私はこれまで、「公民連携」「住民自治」「DX」の3つの発想を柱として、地域の課題を解決する「見立て」とその「現実化」を進めてまいりました。

「公民連携」や「住民自治」は、これまで行政のみが担っていた「公共」の仕組みを転換し、市民の皆様・民間事業者の皆様がそれぞれお持ちのアイデアや資源を掛け合わせることで、幅広い主体が共にまちづくりを行う考え方です。

そして「DX」は、これまで現実空間において人が直接的に行ってきたことに対し、デジタル技術を取り入れることで、距離や時間、あるいは多言語によるコミュニケーションの壁を容易に超え、より多くのニーズに、より早く、より高質に対応できる手法です。

これらの「見立て」とその「現実化」が導き出すのは、「拡大」による発展を前提とした社会システムを脱し、人や企業、団体

など様々な主体が、まるで生命体のごとく、柔軟にそして俊敏に、「自律」「分散」「連携」し、質的な価値を生み出す社会システムの確立です。

今や、急速に進化したデジタル技術が一般的なものとなり、一人ひとりに合った自己実現の選択肢が増え、「自律」した「個」が生み出す価値の可能性も、無限に拡がり続けております。様々な場所に「分散」した人やコミュニティ・組織が、現実空間、さらには仮想空間でもつながり、「連携」することで、相乗的に社会的価値が生み出されているのです。

私の「見立て」は、次々に「現実化」する環境が整いつつあると言えます。

2025年の大阪・関西万国博覧会におきましては、世界最先端のデジタル技術とともに、そのような新たな社会システムの一端を、リアルに体験できるのではないかと期待をしているところです。

私はこれまで、まちづくりの基本理念として「あふれる笑顔 幸せのまち大東づくり」を掲げ、大東でしかできない付加価値の高い暮らしの実現をめざしてまいりました。これは、一人ひとりの笑顔が確立され、周囲の人の笑顔に連鎖し、地域全体へと幸せが拡がることをイメージしております。まさに、「自律」・「分散」・「連携」によるまちづくりです。

今後、時代の変化を見定めながら、「見立て」をあらゆる分野で行い、信念を持って「現実化」することで、本市に関わる一人ひとりが主役となり、希望や喜びを実感しながら暮らし続けられる、「あふれる笑顔 幸せのまち大東づくり」を力強く推進してまいります。

それでは、めざす将来像に向けた3つの「見立て」と、それを支える3つの「基盤づくり」につきまして、令和5年度の主な施策をご説明いたします。

1つ目の「見立て」は、
【産業構造改革】です。

本市では、高度経済成長期において、ものづくり産業が集積し、雇用がうまれ、市内経済を大いに潤してきました。これは、今でも本市にとって大きな強みとなっております。このポテンシャルを活かしながら、急激な社会情勢の変化に対応しうる、柔軟で強靱な産業構造を構築し、次世代に産業都市としての矜持を継承してまいります。

私の産業構造改革の「見立て」は、一社一社が独立して持つ優れた技術や人材、設備などを、ネットワーク化し、必要に応じて「連携」する「大東市版ブロックチェーン」の構築です。この「自律」・「分散」・「連携」の仕組みは、単独では対応できなかった問題点の解決や、より大きな規模のビジネスへの挑戦を可能にするとともに、危機が訪れた際には小さく「分散」することができるため、リスクに対しても強靱な産業基盤となり、人材・設備のシェアリングや流動化など多くの新しい可能性を見出すことができます。

企業間のネットワークをつなぐ「大東市版ブロックチェーン」を構築するためには、急激に進展しているデジタル技術の活用が欠かせません。令和5年度は、市内のものづくり企業が個別に有している技術力やノウハウを可視化し、経営の改善につなげるだけでなく、その強みを対外的に発信することで、新たな受注・発注の創出や企業間連携を生み出し、企業の技術革新や働き方の改革につなげる「市内企業デジタルトランスフォーメーション推進事業」を強力に推し進め、「自律」・「分散」・「連携」による産業DXに取り組んでまいります。

重層的かつ相乗的に、地域経済を支える産業構造を構築していくためには、新たな産業分野への挑戦や、新しく起業しようとする方への支援も重要です。

大東ビジネス創造センター(D-Biz)を中心に、性別や年齢を

問わずひとりでも多くの方がチャレンジできる環境を整えるとともに、子育て世代の新たな働き方にもつながる女性起業支援等の多様なサポートを実施し、市内での起業を力強く後押ししてまいります。

2つ目の「見立て」は、

【社会に貢献する力を得る教育・人材育成】です。

私は就任当初から、「まちづくりは人づくり、人づくりは教育から始まる」という理念を胸に、子どもは大東市の未来を支える宝であるとして、教育環境の充実に力を注いでまいりました。

その「宝」を市全体で守り、育てていくための「見立て」は、さらなる教育のDXと、学びの選択肢の拡充を行うことで、「個」の能力や可能性を最大限に高めるとともに、まちづくりにつながるというものです。インターネットの普及で、様々な世界との接点が開かれた今、子どもたちの生き方は、多くの選択肢にあふれております。教育の場におきましても、多様な選択肢を整え、あらゆる可能性の芽を育む個別最適な教育環境を「現実化」してまいります。

教育現場にもひろく浸透したデジタルツールは、非常時において学びを継続させるための手段としてだけでなく、場所を選ばない多様な学びや、より良い授業づくりのツールとしても有効です。

令和4年度に公立中学校へ先行的に導入したAI型デジタルドリルは、その効果の高さから、今後小学校にも活用を拡げていくことといたしました。さらに、指導の様子や児童・生徒の動きを撮影したデータをAIで分析し、経験豊かな教員の授業ノウハウを可視化することで、教育内容や授業手法の質を一層高めてまいります。

学校運営事務におきましても、デジタル技術の活用をさらに進めてまいります。学校の欠席連絡の電子化や、児童生徒のペ

一パーテストの採点支援システムを導入し、保護者の皆様や教職員の負担軽減と業務効率化につなげてまいります。

また、学びの場そのものである学校につきましても、多様な選択肢を整えてまいります。

本市では、小学校・中学校の9年間で「めざす子ども像」を共有し、両学校が「連携」して地域の特性を活かした教育を進める「小中一貫教育」に取り組んでまいりました。

先般開催した総合教育会議におきましては、小中一貫教育の成果を踏まえ、次なるステップとして、義務教育学校等の設立に関するご議論をいただいたところです。

令和5年度には、教育委員会事務局内に教育総務部と学校教育政策部の両部をつなぐ「教育企画室」が新たに設置されます。教育政策の様々な「見立て」を、組織や立場を越えて力強く「現実化」してまいります。

新たな学びの選択肢として、大きなチャレンジをしているのが「公民連携スクール」の「現実化」であります。皆が同じことを一斉に行い、皆と同じレベルでできることを評価するだけではない「学びの価値観の拡充」への挑戦です。

教育現場におきましては、発達障害、個性あふれる才能、不登校など、様々な背景や特性を持つ子どもが共に学んでおります。「公民連携スクール」のミッションは、個性が際立つ子どもの可能性を、一人ひとりに応じた手法で伸ばす新たな学びの場を加えることです。自分のペースで興味・関心や特性に応じた学び方を選択し、学びを深め、安心感や充足感、自分を認めてもらう喜びを感じられる場にしていきたい、そしてその先には、未来を力強く生き抜く力を備え、まちや社会を支える人になってほしい、と考えております。

既存学校の充実に加え、公民連携スクール等の新たな選択肢を整えることで、個別最適な学びの環境を「現実化」いたします。

「学び」と「学びの実践」が必要なのは、決して子どもたちに限ったことではありません。目まぐるしく変化する社会を生き抜くためには、私たち大人が学び続けることも非常に重要です。

さらに私の「見立て」を「現実化」させる重要な切り口は、パラダイムシフトを先導する「公民連携」のノウハウや理念をオープンソースとして遍く公開し、全国、世界からの知見を集める「大東未来キャンパス構想」を進めることです。市全体がキャンパス、つまり学びのフィールドとなり、子どもから大人までがプレイヤーとして主体的に本市のまちづくりに関わりながら、優れた知見に触れ学習をしていただきます。まさに、未来を創る人材を育成する場なのであります。

「公民連携スクール」から「大東未来キャンパス」へ、学びと実践がつながります。いずれは大東市に蓄積された知見の実践者が、「自律」・「分散」・「連携」するまちづくりのブロックチェーンを形成し、その輪が拡がり続けることでしょう。「大東未来キャンパス」をハブにして関西へ、そして全国へと、本市の公民連携のまちづくりを、発信・発展させてまいります。

3つ目の「見立て」は

【回遊性・快適性の高い都市空間の創出】です。

単一の存在では成し得ないことも、様々な主体がつながり、強みを持ち寄り、力を結集させることで、大きな相乗効果が生まれることは、都市空間の回遊性向上におきましても同様であると考えます。

本市に点在する様々な魅力資源を一層磨いて「自律性」を高め、それらをコンパクトな地勢を活かして「連携」させることで、人流を生み出し、経済活性化を促します。経済が潤うことで、個々の資源はさらに磨かれ、「連携」の輪はさらに強固なものとなるでしょう。都市空間において、この「自律」と「連携」の好循環を生み出すことが、私の「見立て」であります。

飯盛城跡と平野屋新田会所跡につきましては、市民の皆様の誇りとなる資源であるとともに、観光資源として多くの方々にその魅力を体感していただきたい場所です。史跡を保護するだけでなく、学術的な講演会や気軽に参加できるイベントの企画・運営にも力を入れてまいります。あわせて、飯盛城跡へ続くルートに位置する野外活動センターにつきましても、より多くの方に満足いただけるような施設の在り方を検討してまいります。

令和5年度からは、都市魅力観光課を再編し、観光振興課としてスタートいたします。本市が有する様々な歴史文化や既存施設の価値を一層磨き上げ、観光資源として横展開しつなぎ合わせることで、市域全体に係る戦略的な観光振興策を講じてまいります。こうした取組の先には、三好長慶公の大河ドラマ化も「現実化」できると期待をしております。

来訪者の玄関口となるのが、鉄道駅であります。駅を降り立った時の印象は、そのまま、まちの印象にもつながるものです。駅周辺のハード整備と併せて、「都市空間」にも魅力を感じていただけるよう、駅周辺のまちづくりビジョンを描いてまいります。

住道駅周辺につきましては、サンメイツ1番館が民間集合住宅として生まれ変わる予定です。駅前デッキでは、民間事業者により大東ズンチャッチャ夜市の開催やストリートピアノの設置が定期的実施されているほか、末広公園は、(仮称)おっさん横丁として民間活用の実証実験を行っているところです。令和5年度は、住道まちづくり推進事業として、地域の皆様と「連携」して都市空間の魅力創出について検討するとともに、末広公園における民間主体の取組をさらに後押しする環境を整備するべく、研究を行ってまいります。

野崎駅周辺につきましては、令和5年2月14日に野崎駅橋上駅舎及び自由通路が完成し、供用を開始したところです。令

和5年度は、引き続き野崎駅の西側及び東側の駅前広場整備を行うとともに、エリア全体のまちづくりの方向性をビジョンとしてまとめるべく、野崎まちづくり推進事業に取り組んでまいります。

四条畷駅周辺につきましては、駅東側のペDESTリアンデッキの整備等に着手するとともに、都市計画道路四条畷駅前東線などの早期の事業完了をめざします。

morinekiは、公営住宅の建て替え手法に公民連携でパラダイムシフトを起こす、という私の「見立て」が結実したプロジェクトであり、北条エリア全体に対する期待感の高まりを見せております。

北条まちづくりプロジェクトで育んできた北条の樹の枝葉は、皆様の期待感を成長への糧としてさらに大樹となるよう、第Ⅱ期構想の「現実化」に向けた取組を行っているところです。

事業を推進するにあたりましては、何よりも地域の皆様とまちづくりを進めていくことが大切であると考えております。令和5年度は、「嵯峨園第1住宅・第2住宅リニューアル協議会」を中心に、地域の皆様のお声を丁寧にお伺いしながら、具体的な開発に向け、実施方針等を策定してまいります。

これらの拠点や魅力資源をつなげ、回遊性を高める手段のひとつとして、公共交通をはじめとする移動の利便性向上につきましても、市民の皆様のニーズに応じた見直しの検討を行ってまいります。

令和5年度は、立地適正化計画をはじめとする様々な方針等と整合性を図りながら、本市における公共交通の目的・意義を議論していくとともに、コミュニティバスを利用されている方を対象とした移動に関する調査をはじめ、市全域の道路調査を実施し、本市公共交通の再編に向けての基礎資料を作成してまいります。

また、東西の移動の円滑化を図るため、鉄道の連続立体交差化につきましても、大阪府、四條畷市やJRと「連携」しなが

ら検討を進めてまいります。

さらには、本議会で提出しております、大東市バリアフリー基本構想改訂案に基づき、道路や施設等ハード面のバリアフリー化を進めるとともに、誰もが安心して暮らせるまちとなるよう、心のバリアフリー化にも取り組んでまいります。

市内に点在する各拠点の魅力を磨き、公共交通をはじめとした移動の利便性を向上させることで、市内外の交流人口が拡大するだけでなく、年齢や障害の有無に関わらず全ての人が安心して暮らせるまちとなります。点から線へと回遊性を高め、それがエリアの価値を高めていくことにより、まち全体の付加価値を一層高めてまいります。

さて、ここまでに申し上げました3つの「見立て」は、それを支える市民の皆様の実生活や行政組織が盤石でなければ、成し遂げられないものです。ここからは「見立て」の「現実化」に向けた、3つの基盤づくりにつつまして申し述べます。

1つ目は、

【チャレンジを支える安全・安心な生活基盤の強化】です。

近年、新型コロナウイルス感染症の拡大だけでなく、災害や戦争など、世界を揺るがす出来事が相次いで発生しております。グローバル化が進んだ現代におきましては、こうしたほかの地域で起きた危機であっても、物価高騰など様々な形で、市民生活に直接的に影響を及ぼしております。

住みたいまちとして選ばれ、一人ひとりの新たな挑戦を支えるためには、安全で安心な生活基盤の強化が必要不可欠です。あらゆるリスクに対して、一つ一つ丁寧に向き合い、万全に備えること、またリスクが顕在化した際には、迅速かつ適切に対応する環境を整えることで、安心してチャレンジができるまちづくりを進めてまいります。

高い確率で発生すると予測されている南海トラフ巨大地震は、本市におきましても震度6弱の揺れが想定されています。また、本市東部の山際には、急傾斜地が広がっており、大雨による土砂災害等への備えも必要です。

本市は、災害に対しどこにも負けない強いまちをめざし、行政と市民の皆様・民間事業者の皆様が一体となって、災害対策に取り組んでいるところです。令和4年度には宿泊型の防災訓練や福祉避難所の開設訓練を実施したほか、様々な団体との災害連携協定を締結いたしました。また、精度の高い災害情報の提供を行う防災アプリと、円滑な災害対応を可能にする防災支援システムを開発し、防災分野にもICTを積極的に取り入れております。

令和5年度は、アプリの普及と、防災支援システムを活用した防災訓練を実施し、市全体の防災力を徹底的に高めてまいります。また、衛生面に優れた災害用トイレを各避難所に導入するなど、引き続き備蓄物資の充実を図り、誰もが安心して避難できる環境を整えてまいります。

不安定な世界情勢によって、ガソリンの高騰やサプライチェーンの断絶など、エネルギーの自給自足の課題がより顕在化してまいりました。また、世界的に気候変動対策の機運も高まっております。

国際社会の一員として、未来につなぐ環境づくりを行いながら、市民生活に必要なエネルギーを確保するため、市域の温暖化防止対策実行計画を令和5年度に策定し、再生可能エネルギーの導入等を進めるとともに、2050年のゼロカーボンシティの実現をめざします。

身近な安全と安心につきましても、常に現状を把握し、持続的に対策を講じてまいります。

治安維持の強化に向けては、地域内で共同管理する「自治会防犯カメラ」の設置補助を継続することに加え、より公益性が高い箇所につきましても、市が直接管理する街頭防犯カメラを

新たに整備いたします。

物価高騰対策といたしましては、令和4年度に引き続き、学校給食における食材費の一部支援を実施するとともに、令和5年度の1学期間、学校給食を無償化し保護者の皆様の負担軽減を図ってまいります。

また、市民の皆様への生活支援として、1人当たり5千円分のギフトカード配布事業を行ったところですが、第2弾として、マイナンバーカードを取得し、公金受取口座を登録した方に、3千円を支給いたします。今後も、デジタル技術を活用して、より便利に、迅速に支援が行えるよう検討してまいります。

安全で安心な生活基盤として、誰もが安心して住み続けられる住まいの確保にも取り組んでまいります。

令和4年度に策定いたします大東市営住宅長寿命化計画に基づき、嵯峨園第1住宅・第2住宅の建て替えに向け、北条地域まちづくり第Ⅱ期構想の取組を進めるほか、深野園住宅の建て替えにつきましても、野崎エリア全体のまちづくりと絡めて検討を進めてまいります。

また、令和5年度から、重度障害者グループホーム等の開設等に係る補助メニューを拡充いたします。大阪府内のどこよりも充実した本制度をひろく周知し、障害のある方が安心して暮らし続けられる住まいの整備を促進してまいります。

国におきましては、4月からこども家庭庁が創設されます。こうした動きに先んじて、本市では「子育てするなら、大都市よりも大東市。」をブランドメッセージとして掲げ、0歳～18歳まで切れ目のない支援を行う「ネウボランドだいとう」を拠点に、安心して出産や子育てができる環境整備を進めてまいりました。

令和5年度には、小学校入学時に1万円相当のオリジナルギフトセットを配布する入学スタートギフト事業を継続して実施するほか、経済面にも寄り添った伴走型相談支援を開始し、各家庭や子どもの状況に応じたサポート体制を充実してまい

ります。

今日の前で起きている危機、これから起きる可能性のある危機をしっかりと見据え確実に対応すること、そして現在の安全・安心を守り、さらに生活基盤を盤石なものにすることは、「住民の福祉の増進」を第一の目的とする行政にとって、最も大切な役割です。

安心して市民生活を送り、新たな挑戦につなげていただくためにも、社会の変化に則した安全・安心の基盤づくりを常にアップデートし、確実に実行してまいります。

2つ目は、

【健康で活力あふれる暮らしの実現】です。

人の幸せに直接的に関わること、それは健康ではないでしょうか。誰もが能力を発揮して、いきいきと暮らし続けるためには、心身ともに健康になれる環境が必要不可欠です。このことは、コロナ禍を経験して、より一層強く感じたことでもあります。

体の健康には予防と早期発見が、心の健康には社会参画による他者との心豊かな交流が効果的であると考えております。本市に暮らす全ての方が、笑顔で、健康的に暮らす持続可能なまちを実現してまいります。

人の死因の第1位である「がん」は、統計上、生涯のうち約2人に1人がり患しており、どなたにとっても決して他人ごとではありません。

「がん」対策の主要な柱のひとつが、早期発見、早期治療と言われております。本市では現在、市内及び近隣市医療施設を中心に「連携」しながら、国の指針に基づく5つのがん検診や、肝炎ウイルス検査を行っております。令和5年度は、特にがん検診の受診率を向上させるべく、休日における検診実施体制の拡充や、自己負担金の無償化などを実施いたします。一人でも

多くの方々に、がん検診を受診いただけるよう、効果的な事業展開や情報発信に努めてまいります。

市民の皆様の健康を支える国民健康保険料につきましては、令和6年度から、保険料が大阪府内で統一されることとなります。物価高騰等による市民生活の状況を鑑み、令和5年度につきましては、本市独自に国民健康保険料の減額を行い、市民生活と健康を支えてまいります。

また、子育て世帯が安心して医療を受けていただけるよう、令和5年度より子ども医療助成の対象者年齢を満15歳から満18歳へ引き上げ、子どもたちの健やかな育ちを支えてまいります。

「大東元気でまっせ体操」は、現在130を超える市民グループが自主的に活動を運営し、介護予防と見守り合いが多くの地域に広がっております。本事業は、必要に応じて行政サポートを行う一方で、基本的な運営は市民の皆様が主体となって取り組むことで、地域の特性に応じた展開がなされ、持続可能性を担保しております。これは行政職員だけでは成し得ることが難しく、地域の皆様が関わってくださっているからこそ、「公民連携」の成果でもあります。

一人暮らしの高齢者や、認知機能が低下した高齢者の見守りは、ご本人にとっても、ご家族にとっても大きな心配事です。本市では、デジタル技術を活用し、高齢者の方々が安心して暮らせるまちづくりを推進しております。令和4年度に試行した「大東市ハローライト事業」は、その成果を踏まえ、令和5年度より本格導入いたします。さらに、行方が分からなくなった高齢者等の迷い人を少しでも早く見つけられるよう、スマートフォンと連携し、専用アプリで探すことができるGPS発信機能付きIoT機器の購入に対する支援も実施いたします。

誰もが自分に適した社会参画の機会を持つことは、心の健康にとって大変重要です。

本市では、定年を迎える年代である66歳の方を対象として、

交流や地域活動・就労など幅広い選択肢につなげる「66歳地域デビュー応援事業」のほか、高齢者自身も地域を支える担い手となる「生活サポート事業」を推進しております。これらの取組は、市民同士の支え合いを深めるだけでなく、年齢に関わらず、誰もが生きがいを感じる役割や居場所を持つことで、心の健康の増進にもつながるものです。

健康で活力あふれる暮らしの実現は、決して一人で成り立つものではなく、皆様とともに創り上げていくものだと考えております。まずは一人ひとりの「体の健康」、そして人と人とのつながりの中で生まれる「心の健康」、その両輪を持って、市民の皆様は明るく活力にあふれた暮らしの実現を図ってまいります。

最後に、

【行政ガバナンスのアップデート】です。

3つの「見立て」、これらを強力に実行し「現実化」していくには、行政組織力の向上と、行政の在り方自体のアップデートが欠かせません。

現在本市は、令和4年3月に策定した「大東市DX推進基本計画」に基づき、DXを推進しております。DXとは、デジタルトランスフォーメーション、つまりデジタル技術による改革であり、市民サービスのさらなる充実に還元されてこそ、意味があるものと考えます。

令和5年度は、オンライン申請手続きに係るキャッシュレス決済の導入を行うほか、大東市公式LINEの機能を拡充することにより、「行政手続のオンライン化」をさらに加速させ、市民の皆様は利便性を高めます。並行して、デジタルデバイド対策を推進することで、誰ひとり取り残さない行政サービスの提供体制も構築してまいります。また、職員が行う内部事務につきましても、文書管理・電子決裁システムを導入し、事務の効率

化を図ります。

政策の検討や立案におきましては、データや根拠に基づく政策立案「EBPM」という発想を取り入れ、政策の実効性を高めてまいります。令和5年度は、データ分析に関するリテラシーの向上を目的とした職員研修を行い、EBPMの理解を深めることとしております。

行政DXは、庁舎そのものの在り方を変える改革でもあります。まずは身近なところから行政のデジタル化を進めながら、今後5年、10年、その先の行政サービスを見据えた庁舎の在り方を検討してまいります。

デジタル化を進める一方で、今日に至るまちの発展は、多くの人々の知恵や努力によって築かれたものであるということに思いを馳せ、「人」どうしが生み出す心の通う温かさや、それぞれの多様な生き方・考え方も大切にしていかなければなりません。

本議会で改訂案を提出しております「人権行政基本方針」は、あなたをあなたと認め、私を私と認め合える人権が尊重された社会を構築するための方針であり、この考え方は、誰一人取り残さないというSDGsの概念にも則しております。

デジタル化社会が進展する中であっても、DXによって生み出されたマンパワーを、相談業務をはじめとする人でなければできない業務に振り向けるなど、一人ひとりの多様な暮らしに寄り添いながら、一層、市民の皆様と行政との信頼関係を確かなものにしてまいります。

【むすびに】

1849年前後、アメリカ西部で発見された金山に多くの人が集まり、ゴールドラッシュと呼ばれる社会現象が起きました。

金を最初に発見したのは、貧しい暮らしからの脱却をめざし、アメリカ西部の開拓を「見立て」、西へ西へと移動していた労

働者でした。苦しい状況であっても、可能性を「見立て」、実行したことで、金の発見という大きな成果を得ることが出来たのです。

このゴールドラッシュにより、アメリカ西部は不毛の地であるという認識が転換され、人々が集結することで、西海岸の大きな発展につながりました。まさにパラダイムシフトです。

今すぐには見えなくとも、必ず何かがあるに違いないと信念を持って見つめると、そこにあるチャンスや希望が必ず見えてまいります。

本市は、枯れない金脈のように、誰もが参画でき、リターンを得ることができる可能性を生み出すフィールドを創り続けます。ここでチャンスをつかみ、価値を創出していくのは、「自律」する強さを備えた一人ひとりです。たとえすぐには見出せなくとも、信念を持って、個々のノウハウや知恵・行動力を結集することで、さらに大きな価値を生み出せるはずです。私はその先頭に立ち、ここ大東を舞台に、本市に関わるすべての皆様が幸せを分かち合えるゴールドラッシュを「現実化」させてまいります。

私を突き動かすのは、これまでの経験を礎にした「見立て」とそれに対する揺るぎない信念です。誰もが笑顔で日々を過ごし、幸せだと感じる未来を皆様とともに創る、その想いを強く心に刻み「現実化」する1年としてまいります。

最後に、市議会議員の皆様、市民の皆様、関係機関の皆様のより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げ、私の施政方針とさせていただきます。

印刷物番号

4 - 9 8